

附属市民総合医療センターにおける医療用麻薬を含むシリンジ（注射筒）の紛失について

横浜市立大学附属市民総合医療センター（南区浦舟町 4-57）において、病棟で希釈された医療用麻薬が残存したシリンジ（注射筒）を紛失したことが8月18日（木）に判明しました。本件について、翌日に神奈川県薬務課に一報を入れるとともに、継続して院内関係箇所を探索しましたが、現時点では見つかっていない状況です。本日、神奈川県警南警察署へ相談を行うとともに、県薬務課へ事故届を提出します。医療機関として厳重な管理が義務付けられている医療用麻薬を紛失するという事態が発生しましたのでご報告いたします。

1 概要

附属市民総合医療センターにて治療中の患児（1歳児）は、治療のため、末梢静脈から点滴で医療用麻薬（フェンタニル）と鎮静剤（ミダゾラム）を持続投与されていました。紛失当日、閉塞や薬液の漏れがあったため、カテーテルを抜去、別の末梢静脈から再度投与を行いました。後刻、抜去したカテーテルに接続されていた約9mlの薬剤が残存したシリンジをベッド上に置いておいたことを思い出し、確認するも見つからず、回収された廃棄物なども探索しましたが、現在のところ発見に至っていません。

2 紛失した麻薬について

- ・フェンタニル 約9.39ml（生理食塩水込み）

※なお、当該麻薬は生理食塩液等で希釈され、シリンジに少量しか残されていないため、利用（悪用）できる形状にはありません。

3 再発防止策

今後は、当該事例の振り返りを行うとともに、改めて適正な麻薬管理を徹底するなど再発防止に努めてまいります。具体的には、使用済みのシリンジを外した後は、速やかにルート内の残液を回収し、シリンジの状態での麻薬金庫において施錠・保管、その後薬剤部への返却まで適正に管理する等徹底してまいります。

お問合せ先

附属市民総合医療センター 総務課長 片山哲夫 Tel 045-253-5302